

科学技術コミュニケーション推進事業機関活動支援型
平成 26 年度採択企画
実施報告書

1. 企画名

熱気球教室 ～大空へ夢を飛ばそう～

2. 提案機関名

八戸市視聴覚センター・児童科学館

3. 提案企画の概要

「大空を鳥のように自由に飛びまわりたい」と願う子ども達の夢を叶えてあげたい。また、3月11日東日本大震災の復興に取り組む市民や子ども達の希望の一助としたい。宇都宮にある熱気球クラブと連携し、熱気球の搭乗体験を実施する。当地域には、このような機会に恵まれない。大空に気球を飛ばし、空に舞い上がる喜びと空からふるさと八戸を眺め、そのよさに気づかせたい。ミニ気球作りや気球の仕組み実験を体験しながら、科学への興味関心を高めていきたい。特にミニ気球作りでは、色々なコミュニケーションが期待でき、自分の手作りした作品が大空に飛び上がる感動が、宇宙への夢を育む。子どもだけではなく大人の方々の感動も期待できる。

4. 企画の特徴

体験活動が子供だけでなく、大人にとってもインパクトが大きいことである。係留による熱気球搭乗体験であるが、地上14～5メートルまで上昇し、そこから地上やふるさとを眺める感動は最高である。参加者は、老若男女、年齢問わず感動すると思われる。そこから自ずと、気球の仕組みや原理への疑問関心が高まり、科学技術コミュニケーション活動も展開される。また、自ら作成するミニ気球作成活動は、創意工夫の必要な科学技術体験活動であり、科学技術コミュニケーション活動もある。澄んだ青い空に自分の作成したミニ気球が打ち上げられ、飛んでいく感動は、否が応でも子ども達の科学する心に火をつけることであろう。

5. 総合所見

目標の成果が得られ、科学技術コミュニケーションが推進された。

熱気球という魅力的なテーマ、「空を飛ぶ」という夢のある切り口から科学への関心を高めたところがユニークである。また、今後の展開としては、気球に対する関心を超えて、空や宇宙への科学的関心を高めるために絵画作文コンテストを実施しようとしていることは評価できる。

これからは、地域を知る、自然の美しさを知る、科学への関心を高める、といった効果をいかに出していくかについて、さらに検討を深めてほしい。

6. 実施者からPR・感想について

今回企画させていただいた「熱気球教室」では、児童から大人まで体験を通じて科学にふれることができた。特に熱気球体験の参加者は地上から見る地域の素晴らしさに感動し、その想いを「夢」や「希望」へと膨らませる結果となった。ミニ気球作りでは、親子・講師とのコミュニケーションが活発となった。そのことから、子ども達の科学への興味・関心を育むことになったと思う。当館としても、今回のような企画を継続して行い、子ども達に「科学する心」を育むため、「地域教育」を推進しながら運営していきたいと考えている。当館は、市内中心地の住宅街に位置する科学館であり、かつ、入館料無料であるため、連日多くの親子連れが当館を訪れる。今後も子どもたちや市民にとって魅力ある科学館となるよう新しい実験教室等も取り入れた活動を行っていきたい。



[ミニ気球作り]



[作成したミニ気球を飛ばす瞬間]

以上